

2-3

里やまのみどりの新たな価値を創造する

■ 施策の考え方

市内の樹林地では、市民による里やま保全活動が広がりを見せ、良好な維持管理により自然が回復し、レクリエーションの場となるなど、確実に地域の良好な環境が形成されてきています。

ただし、こうした樹林地であっても、活動している方々の高齢化、相続時における所有者の意識の変化などの課題への対応は今後も困難が予想されることから、樹林地の価値をさらに高め、森がかけがえのない地域の宝物となるような取り組みを推進することで、残されている樹林地をしっかりと守り、次の世代に引き継いでいく必要があります。

このようなことから、里やま活動の活性化と樹林地の利活用を促進し、新たな森での地域に密着したライフスタイルを創造するとともに、森の所有者を支援する取り組みを進めていきます。

(1) オープンフォレストの継続・拡充

個人や企業などが所有する庭園などを一般に公開する取り組みをオープンガーデンといますが、オープンフォレストはその森（フォレスト）版です。普段入ることのできない個人の樹林地を所有者の協力を得て公開する取り組みで、本市では、里やま活動団体との連携によって実施しています。

今後も、所有者の理解と協力を得ながら、地域のみどりとして公開するオープンフォレストの継続と拡充を図り、多くの人に森と親しんでもらうことで、みどりを守る意義や課題への理解を促します。

① オープンフォレストの継続・拡充

- 市民による里やま保全活動を推進することで、公開する森を増やしていきます。
- 来場者を増やすために、森を楽しむ新しいプログラムづくりや、開催時期や回数、それぞれの森ごとの開催など、開催方法などを工夫します。
- 周辺の公園や緑地、公共施設などと連携した利活用を検討します。



「オープンフォレスト in 松戸」開催風景

■「オープンフォレスト in 松戸」とは

都市に残された貴重な森を、良好な生活環境を維持するための身近で大切な「みどり」として子どもたちに引き継ぐためには、多くの市民の理解が必要です。

このイベントは、森を身近に感じ、森を守る意義や課題、活動などを理解していただく機会として平成24年度から実施しています。

公開する森は、里やまボランティア活動が行われている森で、民有地のため普段は立ち入ることができませんが、イベントの期間中は所有者の協力を得て公開をしています。

■イベント内容

1. 森の公開

各森の活動日などにあわせて公開します。森では、自然観察や森の散策、里やま作業体験、ハンモックでロープ遊びや竹細工体験などができます。

2. 森の文化祭

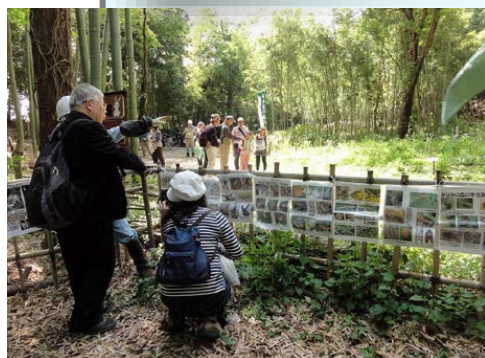
里やまボランティア団体などの活動紹介や森の工作・写真展示、遊べる木のおもちゃなどを用意しています。

3. 森めぐりツアー

ボランティアによる数か所の森を巡るツアーを実施しています。



「オープンフォレスト in 松戸」ポスター



②新たなスタイルのオープンフォレストの検討

- 子どもたちの夢とあそびを受けとめる森づくりを目指します。
- 大人のサードプレイスになるような居心地の良い森づくりや多様なワークスタイルに対応した環境づくりを目指します。
- 世代間の交流や、異なる分野の活動間の交流など、活動の広がりが期待できる森づくりを目指します。
- 市民緑地制度などの仕組みを活用した常時公開型の森づくりを検討します。

■新たなスタイルの森づくりのイメージ



里やま活動団体の協力によって企画された里やまを利用した遊び場（囲いやまの森）

※写真提供：NPO 法人子どもと松戸

(2) フォレスト・マネジメントの仕組みづくり

重点

樹林地の所有者は、日常的な維持管理やゴミの不法投棄、相続税への対応、さらには近隣からの苦情などへの対応に追われる中、森を所有し続けることが困難な状況にあります。

このため、所有者が森を所有し続けることができるように、里やま保全などの活動により森の価値が高まり、森が地域に貢献することで所有者のインセンティブにもつながる、新たなフォレスト・マネジメントの仕組みを検討します。

① 樹林地台帳の整備

- 樹林地を適切に管理するために、基礎的なデータを整理した台帳整備を進めます。

② 樹林地保全の評価システムの構築

- 樹林地の保全制度の適用や樹林地の公有地化、また公開する樹林地に対する支援強化など、樹林地保全の優先度を明確にするための評価システムを構築します。
- 評価に基づいた効果的な支援策を検討します。

③ 樹林地の管理支援の拡充

- 樹林地の管理支援のための助成制度の拡充や、既存の制度とあわせてより効果的な制度の再構築を進めます。
- 樹林地の所有者の意向確認や松戸ふるさと森の会などの関係団体との情報交換を行います。
- 樹木医などの専門家による森の診断を行い、健全な森づくりのためのアドバイスをします。
- アーボリストなどの樹林地の維持管理に必要な技術者の活用や養成を図るための仕組みを検討します。
- 伐採枝や落ち葉などをみどりの資源としてとらえ、その活用方法を検討します。
- 森林病害虫については、被害拡大を防ぐため早期発見に努めるとともに、適切な駆除及び予防対策を講じていきます。

④ 里やまのみどりの利活用による新たな価値の創造

- 新たな森の活用方法やサービスを検討します。
- 新たな運用の仕組みづくりや里やま保全団体の法人化などの組織づくりを検討します。

⑤ 樹林地保全のための財源の確保

- 里やま活動団体などの森の担い手の確保・育成、公園などにおける木材利用の促進、オープンフォレストなどの森の公開イベントでの普及啓発などにかかる事業費には森林環境譲与税の活用を検討します。
- 樹林地の適正な管理をすることで台風などの災害から市民を守るために、樹林地の維持管理のための森林環境譲与税の活用を検討します。

■ 新たな里やま保全の仕組みづくりのイメージ

